

イチゴ難防除病害虫対策の軽作業化を実現 ～イチゴ栽培の魅力向上を目指して～

農業革新支援センター

【普及活動のねらい・対象】

滋賀県のイチゴ栽培面積は20年以上に渡り増加し、本年度は約160戸が17ha栽培されています。しかし近年、薬剤効果の低下によりハダニ類やうどんこ病、炭そ病の難防除病害虫の被害が増加し、防除作業の回数が増えて栽培者の負担となっていました。

そこで、農業革新支援センターでは、魅力あるイチゴ栽培の実現と更なる面積拡大を図ることを目的とし、県内イチゴ生産者を対象に、農薬に頼らない難防除病害虫防除対策に取り組み、品質や収量の向上と併せて防除作業の削減や軽作業化を図りました。

【普及活動の内容】

難防除病害虫の防除対策として①ハダニ類対策：天敵放飼・高濃度炭酸ガス燻蒸技術、②うどんこ病対策：UV-B波の照射、③炭そ病対策：耐病性品種「かおり野」、の4技術の実証ほを県内4カ所に設置しました。

また、実証ほを活用して、7月と11月に県域の研修会を開催し、生産者への普及を図りました。実証技術以外の対策についても、現地巡回時を利用し、育苗期の天敵放飼への誘導や、夏期のうどんこ病集中防除の徹底、炭疽病予防のための移植時の農薬灌注処理の徹底を呼びかけ、被害の減少を図りました。

さらに、生産者と市場関係者を交えた意見交換会を開催しました。生産者からは栽培状況や品質等について、市場関係者からは求める品質や出荷量等について情報交換し、意識の醸成を図りました。

【普及活動の成果】

研修会では、延べ100名を超える生産者が参加され、難防除病害虫対策技術への理解を促すことができました。この結果、天敵の導入は45戸から60戸に増加し、UV-B波照射装置の導入は17戸から38戸まで増加しました。天敵放飼を含め、難防除病害虫対策を1つ以上導入された生産者は74戸と県内生産者の5割にまで広がっています。



写真 実証ほを活用した研修

◎対象者の意見

天敵放飼やUV-B波照射、抵抗性品種の効果が確認でき、次年度以降も継続して活用していきたい（A氏）。